

第1回審議会での意見と回答

太字：検討委員の意見 細字：市の回答、対応 （以下同じ）

進行

時間は2時間とする。90分は短い感じがします。

次回から2時間にします。

最後にも発言がありましたようにスムーズに進行して頂きたいと思いました。

以後、改善いたします。

これまで市民ワークショップや検討委員会で提案、議論されてきた経緯があるのだから、それらを審議会に活かすべき。ワークショップ委員や検討委員にとっては、同じ議論を繰り返すことになる。

改善いたします。

基本構想 （加西の良さ）

「加西の良さ」の共通理念探しが必要。良さがあしながら、共通認識になってないことが問題と考える。

市民アンケートでは、自然環境がよい、住環境がよい、まちに歴史や伝統が感じられる、住民の気質がよいといった回答がありました。事務局も、委員の皆様のご意見をいただき、これに同様、あるいは近い内容ではないかと感じております。

しかし、（加西の悪い面を改善することに比べて）加西の良さが、とりわけ注目されたり、それを積極的に伸ばす政策というものはあまり行われていませんでした。

「加西の良さ」→魅力は何か。一言で皆が言えるようになるまで議論を積み上げることが必要かもしれません。

誰もが一言で説明できるものがあればよいと考えます。これまでは市の歴史や自然、文化を「根日女（ねひめ）」という言葉で表現していましたが、一言で説明できない弱さがありました。市民ワーキングでは「ぶどう」を用いて加西らしさを表現し、議論することがありました。今回の総合計画においては、「ぶどう」の絵を自然豊かで元気な加西のイメージとして用いています。

加西市民が加西を知るべきでしょう。

わがまち、わがふるさとと誇れる自然環境、資産、資源に目（心）を向け、語れる暮らしが創造できるように…。 キャッチフレーズがまちのあちこちにあるといい。

そのとおりと考えます。

市外特に県外に遠く離れて住んでいる人にとって、加西市に帰ることは、“自分の原点に戻る”ことだと思います。

私自身中学・高校 6 年間をこの加西市で過ごし、高校卒業後は、たまに帰省するくらいのことでした。

平成 16 年に加西市へ異動が決まった時、事務に書類を出すために加西に来た際、ふと渡り廊下の窓から外を見ると山々がとても美しく見えました。中高生のときは毎日眺めていた山ですが、久しぶりに見ると何ともいえず、なつかしい気持ちになりました。

昔勉強に疲れたときよく眺めていた山の景色そのものだったからです。ああ、ここは変わらないなあ。私がここを“終のすみか”と決めた瞬間でした。

加西市に住んでいたときは、こんな田舎はいや、と阪急沿線に住むことにあこがれを抱いていましたし、実際宝塚や神戸に住み、景気の美しい琵琶湖周辺にも住みましたが、“終のすみか”とは思えませんでした。

今、私は自分の原点にもどってきたな、と実感しています。

地元に戻る、という退職とか都会の生活に疲れたからとネガティブに考えがちですが、私は子育ての間こそ自然の中で遊び、地元でとれた食物を食べることができる、この加西市に住むことに意義があるのではないかと考えます。

いつまでも変わらない自然とここに流れるゆったりとした時間、それが加西市なのではないでしょうか？

以上とりとめもないことを書きましたが、先日加西らしさって何だろう、という議題が出ていましたので、自分なりに考えてみました。

加西の良さをどんどんPRしていきたいと考えます。

将来人口

土地利用構想と都市計画マスタープランの整合性を説明していただけますか。

総合計画は今年度には作成し、それを受けて都市計画マスタープランを来年度に策定します。

思う以上に高齢者が問題と感じました。

今後、高齢層の比率が高まるなかで、ただ余生を過ごす老後ではなく、これまで以上に元気に社会参加できるよう取り組みたいと考えます。

加西市の人口は今 5 万弱である。30 年先には 3 万弱になる予想である。その時には、65 歳以上が半分になると予想される。

そんなことでは、市全体の活性化がはかれない。緩やかなカーブを保たないといけない。

今日も商工会議所の常任委員会があったが、市役所、商工会議所も応援して、雇用問題、労働力、需要の問題等々考えていかないと、市が廃墟になってしまうのではないか。

有志者が集まり、緩やかなカーブになるようビジョンを考えていく必要がある。

すべての施策を人口対策につなげたいと考えています。市の活力が持続、発展できるよう一つひとつの取り組みを確実に実行できる計画に仕上げていきたいと考えます。

平成 17 年の国勢調査によれば、加西市は若年人口比率が播州主要都市平均に比べて低く、人口が今後、自然増となる可能性は低い。

なぜ若年層が加西市に定住しないのか、調査をしてみたい。

加西市への定住を促す施策として、ストック住宅の情報集積と維持管理、空き家バンクサイトの拡張、域内進出企業による借り上げ社宅化、Uターン・Iターン者へのインセンティブ給付が考えられる。想定商圈エリアの人口が 33 万人にもなるイオンモールに市役所の出張所を設置し、定住情報の発信強化に取り組んではどうか。

播州主要都市における借家世帯は約 13 万戸、通勤者の流入人口が流出人口より多いということは「働く場所はあるのに、住む場所がない」ということ、潜在需要はあるはず。

定住施策の発信強化に取り組みたいです。

人口減少、少子高齢化…はとにかく困難で暗いイメージで語られますが、改革のチャンスです。ムダを無くし、コンパクトにすることは市民の隅々まで市政の目が届くことになります。今後 10 年先、30 年先にこの委員のメンバーの何名が、元気で生きることを楽しんでおられるでしょうか。元気な高齢者が、いつまでも（死ぬまで）活躍できるまちづくりをすること、あらゆる場面でお年寄りの力を活かせるしくみをつくることは美しい加西、やさしい加西、ムダのない加西になると思います。グチを言わない老人を増やしましょう。余談 先日、西脇の方から「加西はいい！力があっていい！」と褒めていただきました。

もっともっと加西はいいと言われるよう取り組みたいと思います。

土地利用

土地利用構想と都市マスの整合性を説明していただけますか。

総合計画は今年度には作成し、それを受けて都市計画マスタープランを来年策定します。

前計画の評価と検証

第 4 次加西市総合計画の評価と検証の中で、数値の上では全体の進捗率 49%となっています。低い結果と捉えられていますが、新規事業や大型プロジェクトとなると予算の在り方も大きく影響しますし、10 年計画ともなると時代の変化もあるので、計画通りには難しいのは理解できます。

ただ、普遍的な事柄も必要かと思います。基本的な生活土台が安定することが加西市に住む大切な要因ですので、現実生活に即した部分を充実させ、まず現在居住している人々が転出しないということから人口減少対策へ取り組み、対外的な知名度も上げていきたいものと思います。ご指摘のとおり基本的な生活土台が安定することが加西市に住む大切な要因と考えております。住民生活の視点から総合計画を策定していきます。

政策と施策の体系

加西市民一人一人が支え合い、助け合う社会生活を営むために、行政・企業・住民の協力のもと、地域づくりが進められると思いますが、地域住民が我慢のしがいがある夢を持った方向性が出され、又、財政指標の現状を見込み、客観的基準で内容を区分する必要があると思います。地域の活力は経済力だけでは計れません。地域の強みを寄せ合い、つなぎ、求心力を高める取り組みが提案されればと考えます。

住民一人ひとりの「力」とそれをつなげていく「力」を高めることが、「地域の力」になると考えています。特に、つなげていく力を伸ばしていきたいと思います。

市の事務局側が提出・説明した「序論・基本構想（案）」ですが、策定の趣旨のところでは述べられている“将来から今を創造する”や基本目標・加西の元気力の図（10 ページ）などは大変結構なのですが、その観点が基本構想（案）全体では内容として生きていない。やはり「現状」にとらわれすぎていて、思い切った内容展開に至っていない。残念です。なぜそのようになるか、2 つの原因が考えられる。

ひとつは今後の世界情勢、なかでも経済情勢、技術革新・新産業情勢、気候変動交渉の新展開（規制と競争）情勢などの検討や分析が不足していることが原因と思われる。年次を隠して構想内容の記述を見たり、委員の意見をお聞きすると、10 年前の上状況内容とほとんど変わらず、平成 23 年（2011 年）からの総合計画とは考えにくい。

もう一つの原因（これが最大の原因）は、下部構造の分析と重点評価の不足にあるように思われる。加西市内に賦存する生態系サービスの定量的な価値（経済価値を含）分析が試みられたのかどうか、基本構想（案）を見る限りでは不明。加西市はもたらされている太陽エネルギーのいくらを利活用しようとおられるのか。同じく、年間の風力のエネルギーのいくらを産業化されようとしているのか、地下（中）熱エネルギーのいくらを地域生活エネルギーとして活用しようとしているのか…不明。バイオマス資源を中心に「下部構造の産業化（グリーン産業クラスターの形成）」が明日の加西を元気にする源ではないでしょうか。グリーン成長なくしては加西の諸々の課題（意見として出ていた）は解決しません。高齢者の問題も医療費の問題も若者流出の問題も結婚難の問題も…。

「下部構造の産業化」でもって加西の環境と経済の有機的統合（グリーン産業とグリーン雇用の創出）を図ることが、2040 年～50 年からみた“今の構造”（2 ページ）であり、元気があって穏やかで住んでよかった“誇れるまち加西”を導くことにつながる。参考「あわじ環境未来島構想」（平成 22 年 7 月、兵庫県・洲本市・南あわじ市・淡路市）

カーボנקレジットの将来価値に重点を置いた構想にする。石油からカーボン（低酸素社会）へ重点が移っていくことがこれからの社会からの構想への切り口が必要。CO2 削減（吸収含）を可能にする物件の発見や開発～取組～CO2 削減効果（算定と検証）、クレジット申請、取引（利益の加西内部化）等の体制づくりやシステム化が、「下部構造の産業化」を補完して加西にダブルの経済的利益（これこそが加西の元気の源）をもたらす。

思い切った内容展開に至っていない点について、計画の中でどのように書き込むべきか、あわじ市が日本、世界へと発信する取り組みを研究し、学びたいと思います。よろしくご教示ください。

基本計画全般

基本構想案の誤字・脱字等を再度チェックしていただけますか。

→例えば「子ども」で表記を統一するなど。

訂正します。

基本計画（案）とマニフェストの整合性はどうでしょうか。

→ この整合性については、一覧表を作成することはできませんか。

総合計画の策定に合わせ、第 2 次マニフェストは今年度末に見直しをする予定です。また、実施計画がそのままマニフェストになります。第 2 次のマニフェストと第 5 次総合計画の対比は別紙 1（8 ページ）のとおりです。

市ですること、パートナーシップの NP0 がすることと分ける方が良いと思いました。

→市の業務の減少

→市ですることは少ない方が実施しやすい。

市の取り組みをもう少し具体的に絞込みたいと考えます。

人づくりの視点

少子高齢化は避けられないが、出生率低下の歯止めを掛けるべく、子育て世代が他市に流れず、市内に居住を希望するような福祉政策が必要ではないか。

少なくとも

①. 中 3 迄医療費無料化

②. 予防接種料金の公的助成（ヒブ、子宮頸がん、肺炎球菌など）

来年度には、全国的にこれらは公的助成対象になると思われるが、他市でやっているのにしてないのは、明らかにマイナス要因である。前向きの姿勢を感じるような政策を打ち出せないか。

1. 子どもが元気に育ちいきいきと活動する加西

乳児医療機関の延長（中 3 まで）

ワクチン助成（肺炎球菌）、子宮頸がんワクチンなど）

病児保育・学童保育の充実

2. 人口減少

将来人口の減少は必ずおこりうるもの

人口減少に少しでも歯止めをかけるためにも若い世帯の転入者を増やさねばならない。

そのためには 1. のことを取り入れ“子育てしやすい町”ということをアピールする。

財源に苦慮しており、一度に小野市並みまでもっていくことができない状況です。年々拡充していますが、その分、後手後手になり、結果的にアピールできないばかりか、外から消極的であるというマイナスの印象を与えてしまっています。全くご指摘のとおりで、お返しする言葉が見当たりません。一步でも前へ進めるよう改善したいと思います。

産業の視点

神戸新聞社では、創刊 110 周年記念として「地才地創プロジェクト」に取り組んでいる。

潜在する地域の才能を掘り起こし、新たな地域の創造につなげていくことが目的。日々の住民の生活に人々を引きつける地域資源は隠れている。外からの評価ではなく、自分たちで観光資源を再発見しようという機運を芽生えさせてはどうか。

その機運が生まれ、盛り上がっていくような計画にしたいと思います。

地元の人には当たり前でも外から見れば珍しい、いまの時代には価値がある、そういうものを

見つけたい。青森県五所川原市では厳しい冬の地吹雪を観光資源として見出し、観光客が押し寄せる盛況ぶりに。逆転の発想。自分たちが弱点と思っているところにもチャンスはある。

いかなるチャンスも見逃さないよう前向きに取り組みたいです。

環境の視点

生物多様性の件 外来生物への対応を考えたい。

生物の生息環境の把握、調査、保全、回復といった取り組みも加えていきたいと考えます。生物多様性地域戦略という計画も策定する予定ですので、その根拠計画になるように反映させていきます。

「環境と景観のまちづくり」という市長の公約を深く掘って、具体的にどうすればよいかを考えたい。

今回、検討委員や審議会委員の皆様のご意見を反映し、加西市の風土や教育面からも環境と景観のまちづくりをもう少し掘り下げるよう加筆します。

児童数減少に伴う学校再配置計画について、混乱を招いており、父兄からの不安の声をよく耳にする。まず、現場の教師たちに情報が正確に伝わっていないため、親たちも不安に感じる。現段階での市としての方向性を校長会で説明するなど、情報発信すべきではないか。

学校再配置計画は素案を今年 6 月に発表し、有識者や P T A、校長先生等を交え、検討委員会を開催しています。結論ありきの会議ではなく、検討委員会で多方面から議論をいただいているところですが、先生や保護者には十分に伝わっていないと思います。地域で議論していただくためにも、学校や P T A でも広く委員会の状況をお知らせしたいと思います。

第5次総合計画(案)		第2次改革マニフェスト		
施策番号	施策	マニフェスト番号	マニフェスト取組項目	所属
1	誰もが学べる学習環境づくり	18	図書館と地域交流センターの統合による社会教育の推進	経営戦略室
5	特色ある教育	13	加西市全体の教育のあり方と教育振興基本計画の策定	教育委員会
5	特色ある教育	14	「確かな学力」「生きる力」の育成に向けた教育環境の整備	教育委員会
5	特色ある教育	15	小中学校の適正規模適性配置の検討と推進	教育委員会
6	安全で快適な学校づくり	28	学校の耐震化工事計画の策定及び実施	教育委員会
7	地域に開かれた学校づくり	19	教育委員会の見える化と社会教育活動の推進	教育委員会
8	農業の担い手育成	3	農業振興基本計画の策定と農業者の育成	地域振興部
9	地域資源を活用した産業振興	1	加西ブランドの育成	地域振興部
9	地域資源を活用した産業振興	8	光ファイバー網の整備	総務部
9	地域資源を活用した産業振興	5	企業誘致と次期産業団地の検討	経営戦略室
11	加西らしい観光の推進	2	観光を核とした地域活性化と交流人口の拡大	地域振興部
13	周辺地域の定住促進	6	子育てファミリー層を対象とする持家促進	地域振興部
13	周辺地域の定住促進	9	定住促進と民間活用を軸とした住宅マスタープランの策定	都市開発部
14	公共交通網の構築	10	北条鉄道の経営改善	経営戦略室
14	公共交通網の構築	11	公共交通網(コミバス)の再編整備	経営戦略室
15	住みよい住環境づくり	12	橋梁長寿命化修繕計画の策定にあたっての橋梁点検	都市開発部
16	社会参加を通じた生きがいづくり	20	障害者の社会参加の促進	市民福祉部
17	こころとからだの健康づくり	22	健康増進センターのあり方の検討	市民福祉部
17	こころとからだの健康づくり	23	健康診断(特定健診・がん検診)受診率の向上	市民福祉部
18	地域医療体制の充実	24	市立加西病院改革プランの実施	病院
19	地域で支え合う安心の暮らし	21	社会福祉協議会の組織運営に対する支援	市民福祉部
20	防犯・防災のまちづくり	25	北播磨3市1町消防広域事務組合消防本部の設立	消防
20	防犯・防災のまちづくり	26	住宅用火災警報器の設置促進	消防
20	防犯・防災のまちづくり	27	加西防災ネットの登録者数の拡大	総務部
21	安心できる子育て支	17	次世代育成対策行動計画の策定	経営戦略室
21	安心できる子育て支	16	民営化・最適配置による幼児教育・保育の改善	教育委員会
22	自然と共生する里地里山づくり	4	遊休農地の解消	地域振興部
23	加西の風土を活かした景観づくり	33	加西市らしい景観の構築	都市開発部
23	加西の風土を活かした景観づくり	34	開発調整条例の制定	都市開発部
24	省エネ・蓄エネ・創エネの推進	31	環境先進都市を目指した各種環境施策の推進	生活環境部
25	水環境のまちづくり	7	上下水道事業の経営健全化と民間活力の導入	生活環境部
26	ゴミ減量と資源リサイクルの推進	29	バイオガスの有効活用(事業化)の調査研究	生活環境部
26	ゴミ減量と資源リサイクルの推進	30	木質系バイオマスの有効利用	生活環境部
26	ゴミ減量と資源リサイクルの推進	32	資源ごみのリサイクル事業推進	生活環境部
28	情報公開と住民参画のまちづくり	37	市政出前講座の実施	総務部
28	情報公開と住民参画のまちづくり	38	住民投票条例の制定	総務部
28	情報公開と住民参画のまちづくり	48	情報発信の拡大	経営戦略室
29	ダイバーシティ社会の実現	35	男女共同参画の推進	総務部
29	ダイバーシティ社会の実現	36	多文化共生活動の推進	総務部
30	行政サービスの向上と効率経営	39	予算編成過程の公表、財務書類4表の作成と公表	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	40	収入源の拡大(広告収入、自販機業者公募等)	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	41	公有資産の売却/有償貸出し/流動化	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	42	滞納整理の強化	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	43	借用資産の適正化	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	44	補助金の見直し	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	45	公共施設マネジメント計画の策定	経営戦略室
30	行政サービスの向上と効率経営	46	競争契約の推進強化	財務部
30	行政サービスの向上と効率経営	47	衛生施設等の民間委託の拡大	生活環境部
30	行政サービスの向上と効率経営	49	窓口業務工数の削減と利便性の向上	経営戦略室
30	行政サービスの向上と効率経営	50	指定管理者制度の運用改善と公共施設の利用率の向上	経営戦略室
30	行政サービスの向上と効率経営	51	市役所業務のプロセス分析に基づくBPRと外部化計画の策定	経営戦略室
30	行政サービスの向上と効率経営	52	人材育成の強化と人事評価制度改革	総務部
30	行政サービスの向上と効率経営	53	職員人件費の抑制	総務部
30	行政サービスの向上と効率経営	54	報連相システムの構築	総務部